

タンポポって面白い！

岡崎市緑丘保育園（愛知県岡崎市）

<設定の理由> 登園途中で摘んだタンポポの花をプレゼントしてくれる子どもたち。身近で親しみやすいタンポポは、子どもたちの遊びに様々に関わらせていくのに絶好の教材であると考えた。地域の中の自然に触れながら、子どもたちと一緒に様々な挑戦をしていく中で驚きや発見に出会い、興味、関心を深めたいと思った。

タンポポの綿毛で遊ぼう

- ・みんなで飛ばしてみよう。
- ・どこまで飛んでいくかな？
- ・綿毛を作ろう。



タンポポの茎で遊ぼう！

- ・タンポポ笛吹ける？

タンポポの事を良く知ろう

- ・葉っぱの形は違うの？
...集めて比べてみよう。
- ・タンポポの根っこって本当に長いのか？
...根っこ掘りに挑戦しよう。

あれっ？さっきより綿毛になってる？

戸外活動から帰ると出かけたときよりも綿毛が開いていることに気付いた子どもたち。
子：「あれっ？さっきより綿毛になってる？」
子：「ほんた。ちょっと大きくなってね」
一日が経ち、降園近くになると、完全に綿毛になった。子どもたちは綿毛を手で払ったり、吹いたりしては飛ばそうとしていた。

子：「綿毛は、段々できていくんだね」

保：「みんなも、花の終わったタンポポを探ってくると綿毛が出来るんだよ」

と綿毛になる前の状態を皆に見せた。降園後再び戻ってきた年中児は、とても小さなタンポポのつぼみを手にとり「これでしょう。縛っというて」と早速タンポポの綿毛作りに挑戦した子がでてきた。翌日綿毛になった状態を見て、クラス全体で興味が持たれ、登降園時に少しずつタンポポのつぼみが集まってきて、綿毛作りの挑戦が続いた。

タンポポ笛吹ける？

「タンポポ笛吹ける？」お母さんに教えてもらって、タンポポ笛に挑戦する子もいた。「太い茎がいい？」「優しく吹くといいよ」と伝え合ったり、「茎の長さで違う音が出るね」と音色の違いにも気付き、何回も失敗を繰り返しながらも挑戦していた。

葉っぱっているんな形があるね

春の図鑑には、タンポポの葉は、色々な形があることが掲載されていた。散歩の途中で一人一枚ずつタンポポの葉を取って帰る。保育士がそれを並べて掲示する。

「大きいのがあるね」「ぎざぎざしたのがあるね」「これは細いね」「太くてまあるいね」など葉っぱを比較して話し合っていた。それから、散歩に出かけたり、登降園の道で「綿毛の赤ちゃん」に加えて、タンポポの葉っぱも園へのお土産にする子がでてきた。

タンポポの根っこって長いね

子どもたちと見てきた図鑑に、「タンポポの根はとても長く、80cm～120cmくらいのものである」と掲載されていた。クラスで一番長身の子が、丁度120cmだったので、「君くらいあるんだって」と伝える。

「そんなに長い？すご～い」と関心を示したので、保育者が「お散歩で、タンポポが沢山咲いてるとこ知ってるでしょ？そこにいけばみんなも掘れるかもよ」というと、「へ～やってみたい、やってみたい」と口々に言っていた。そこで今まで散歩をしてきた六斗目川周辺のタンポポの群生している場所に出かけて、タンポポの根っこ掘りに挑戦していくことにした。

根っこ途中で切れちゃった。

1度目は思っていたようにできず、中途半端な様子で切り上げることになった。2度目は、一人ひとりがスコップを持って挑戦したが、思うように掘り進めることができなかった。3度目は4～5人で掘り始めた。根っこは土の奥深くまで続いていた。保育士が根の周りの土を草刈鎌や備中鍬で柔らかくほぐしていくと、「先生、それ何してるの？」と道具の用途に興味を持ち始めての質問も出た。「この鍬で土を柔らかくして根っこを掘りやすくしてるんだよ」という保育士の言葉から、道具の用途を理解したことにより、「先生こっちも柔らかくして」と要求の声があがり、根を引っぱる行為から、保育士が土を柔らかくすると、みんなで一斉に手で土を退かして根を繰り当てていく姿が変わっていった。そんな中、もう少しで根の先が見えそうなところまで掘り当てたグループの一人が、根を引っぱってしまい切れてしまった。グループの誰も責めることはなかったが、「ぼくが引っぱっちゃった、ごめんね」と謝る場面も見られた。

今度こそ！

タンポポを見つけることも、見分けることも、大きい根っこを持つタンポポを予測することも、とても素早くなった。経験を重ねながら根っこの先を切らずに上手に掘れるようになった。しかし、図鑑に載っていたような太くて長い根に出会うことは出来なかった。

すご～い！長い根っこだ！

土手で見つけたタンポポの根を掘る。子どもたちは代わる代わる太い根の周辺の土を手で優しく退かしていく。図鑑のような根が、顔を出し始め、「引っ張っちゃあダメだよ」という子がいた。緊張しながら30分程掘ると、遂に長さ60cmの太くて長い根を掘り出すことに成功した。「すごいな～」「よく掘れたな」「写真みたいだ」と口々に感想を言っていた。その日の降園時には、いつもと帰り道を変えて園の裏の土手に回って長い根っこを母親に見せる子どももいた。



その後、集まったタンポポの根で「タンポポコーヒー」を作り味わった。

天日干したタンポポの根を煎った香ばしい香りには、「タイヤキみたいな匂いだ」「ポップコーンみたいな」と口々に言っていた。期待いっぱい飲んだコーヒーはまさしく大人の味で、「あんまりおいしくない」と言っていた。

みどころ

何気なく見つけると吹いて遊ぶタンポポの綿毛も、「どのようにできるのかな？」と不思議に思い興味をもつと、「綿毛を作ってみよう」と繰り返し挑戦しています。茎で笛ができると分かると何回も挑戦し、「タンポポの根の長さが友達の身長ぐらいある」と分かると「見てみたい、確かめたい」「掘ってみよう」と何回も挑戦しています。失敗しても目的意識をもって意欲的にやり遂げようとしています。そこでは、「なぜだろう？」「してみよう」と考えたり工夫したりしています。そして試行錯誤の末に、「科学する心」が育まれたことを幼児自身も実感できるようなやり遂げた達成感や感動を味わったと思われます。